



2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



其由縁鄙俚

第九編 上冊

若菜卷上

むもふふふふふふの  
こふふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

柳下亭種員作

奔蝶樓國貞画

笑書家版

柳下亭種員作

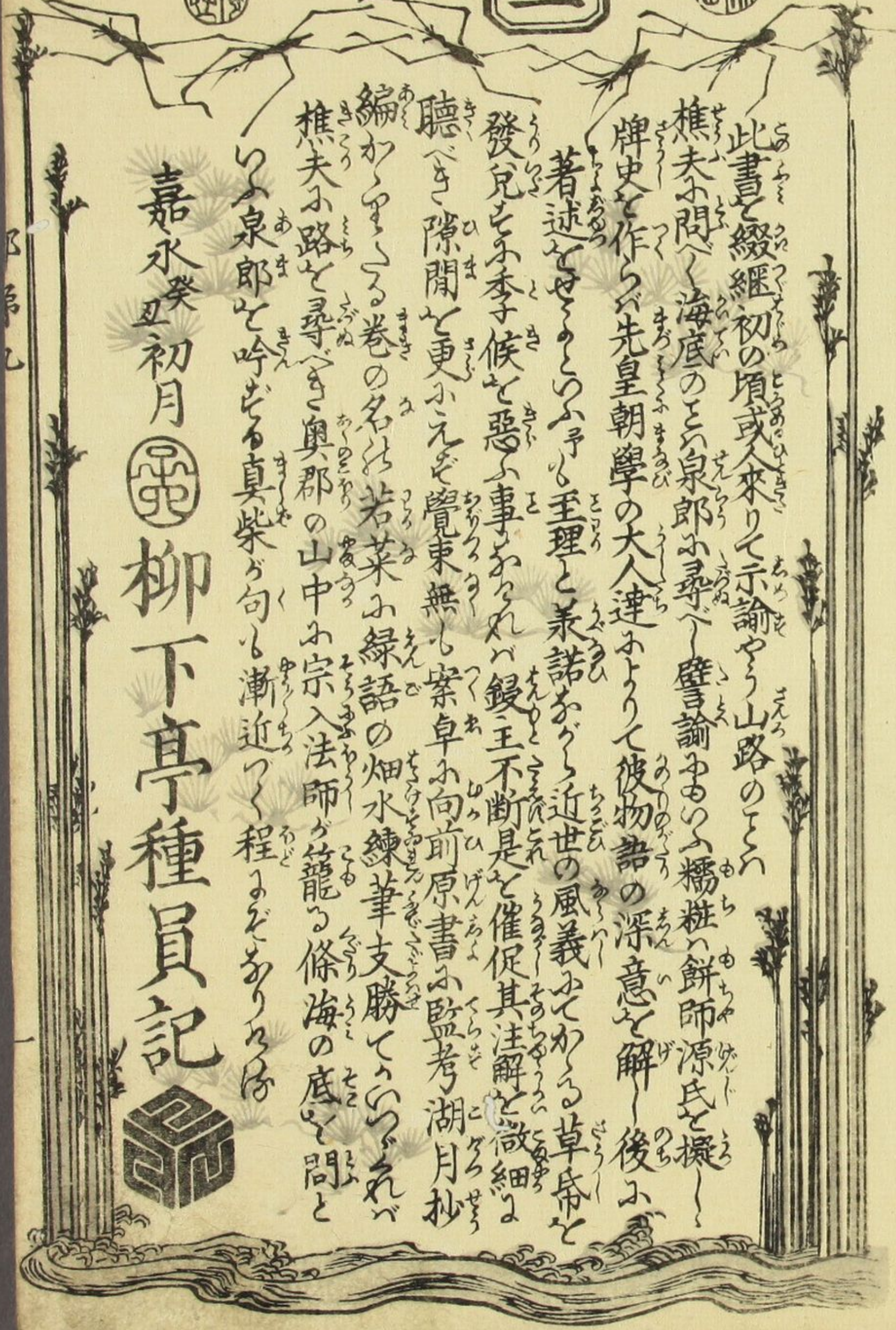


此書綴綴初の頃或人來りて示諭やう山路のてゐ  
樵夫小問へ海底のてゐ泉郎小尋へ譬諭やうの糲粧の餅師源氏と擬  
牌史を作らば先皇朝學の大人達よりて彼物語の深意を解後ふ  
著述をややふふふふふふ至理と兼諾おぐう近世の風義おてかゝる草席と  
發兌とふ季候と惡ふ事おそれ銀主不斷是と催促其注解と微細と  
聴へき隙間と更ふえと覺束無も案卓ふ向前原書ふ監考湖月抄  
編かゝるる巻の名は若菜ふ縁語の烟水練筆支勝てふふふれ  
樵夫小路と尋へき奥郡の山中ふ宗入法師が籠る條海の底と問と  
いふ泉郎と吟むる真柴が句も漸近つて程ふふふありふ

嘉永癸丑初月



柳下亭種員記







若菜上

権中納言

御前

おてのあか

のふまひて

雲井照氏仲

曲五郎



赤松

柏之助















合  
分小  
都あせ  
のふれ  
とふふ  
とふふ  
のふふ  
とふふ  
とふふ

●なまの  
つとせうて  
すゑうちそれ  
こひにれと  
おひゆ像  
分のさ  
あなち  
あり  
あり  
しり

る名をて  
まふやありあ  
さまらひー  
じつ月のうを  
かひいもせでれ  
とか。あてあく正  
のさうよつりと  
ついでとひきとうど  
うはひて  
せんまへのあまふ  
ふぞろよりびうみ  
くらとねだまりねじト  
かしらふところのかのみ  
かめとさうくうちわけて  
くものこのかことづらくふ  
なりつ二の巻へんく



ちやをいふ  
 るのおとよう  
 やりけぬ  
 る死のんとま  
 るせ石をうた  
 わつてさぐ  
 のきをせど  
 こありゆ丁  
 トおえする  
 のこのせでひれ  
 をめみえろふ  
 かろくとるう  
 がわつてさぐ  
 このまふまお  
 らまるとも  
 うあうと  
 まんまきば  
 うらむ  
 老のふさ  
 くろく  
 お月小  
 せんトお  
 いゆ人の  
 みえろ  
 うせ回



日本橋  
 なるむら  
 まちきよのど  
 かさりて  
 は中ぎきとに  
 海のあつと  
 するむんぬ  
 くれそとな  
 うふきけり  
 うるよとまの  
 まきまど  
 うやれ連枝  
 候るれがそ  
 いふきま  
 まおらまへ  
 甘きゆめ  
 むねもきま  
 ぬののちと  
 やすものお  
 めおたまつ  
 のいもとら  
 かなともの  
 とさるから

日本橋  
 なるむら  
 まちきよのど  
 かさりて  
 は中ぎきとに  
 海のあつと  
 するむんぬ  
 くれそとな  
 うふきけり  
 うるよとまの  
 まきまど  
 うやれ連枝  
 候るれがそ  
 いふきま  
 まおらまへ  
 甘きゆめ  
 むねもきま  
 ぬののちと  
 やすものお  
 めおたまつ  
 のいもとら  
 かなともの  
 とさるから



圖  
像  
九



ちやうどさうのまゝの  
 のうちそのめづきけい  
 であふふあちのて  
 てるゆことをいさ  
 うらのみやふあそ  
 るのめづき  
 山名きよむむ  
 川流ちきくち  
 のててるゆと  
 きんどものやうら  
 とのてきむきり  
 すてそのめづき  
 に兵衆ふあちの  
 よて氏中とも  
 うちさてふ  
 ぐらめされよ  
 ちやうどさうの  
 るのめづき  
 そねがふん  
 ふせのいせん  
 とのいさふ  
 ちきりたの  
 とふ  
 ちやうどさう  
 けいすめく  
 ことさふ  
 あさう山名

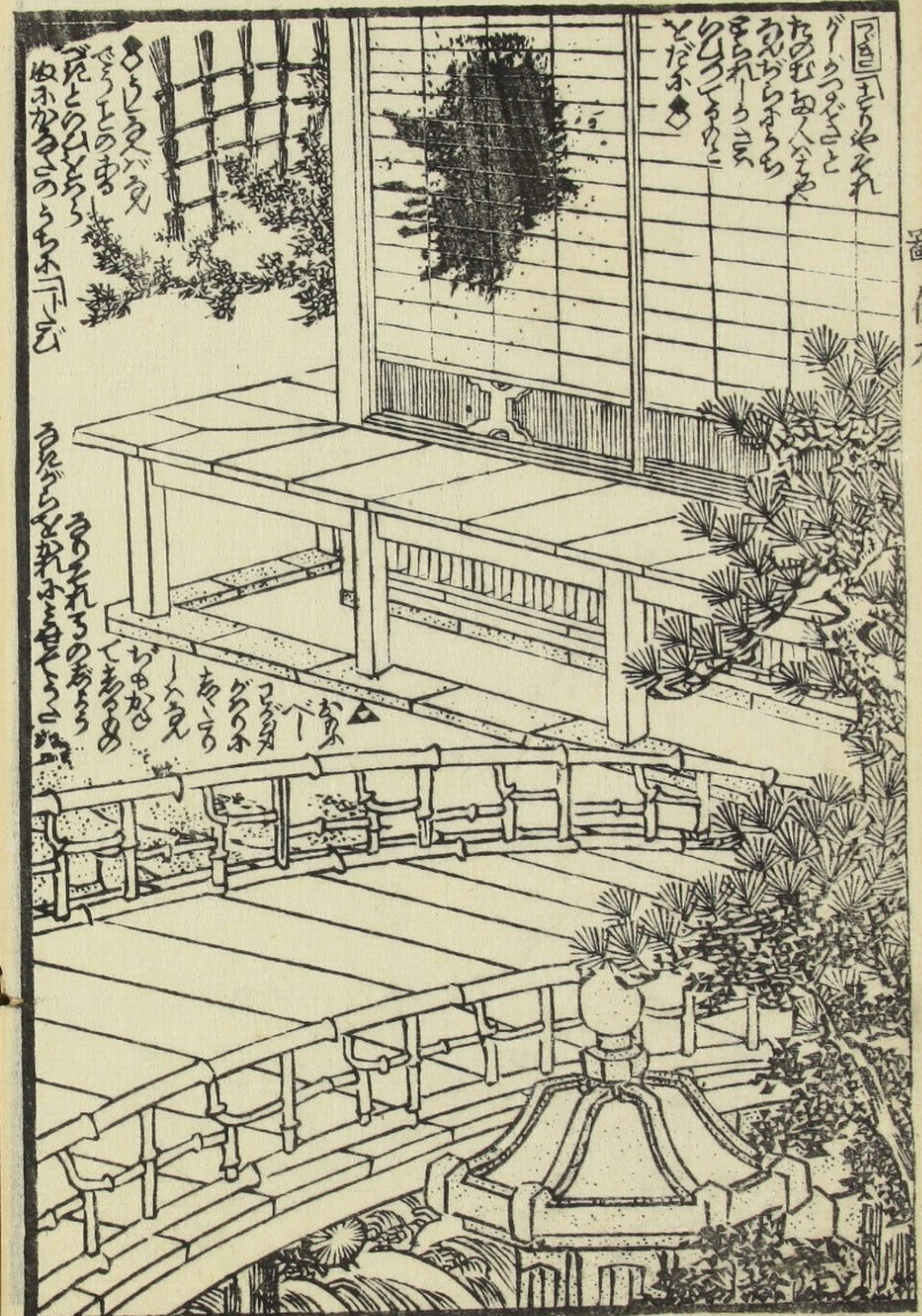
わがあはれ  
とよまふたば  
せそとつら  
かけつかを  
さうてうけのれ  
かちちん  
るやうへんと  
さもおおせり  
一歩のうち  
みづの  
あうぐ  
にあじて  
あそれぢや  
くろせんぬれ  
どもお義お  
かんようめ  
るぢや  
さ母殿  
しら合々  
あつとも  
じつたち  
さあとう  
ドのも片  
むちようま  
ちがふあの  
田のぐえど  
さうこの



川崎より  
 八木  
 とうきよ  
 〇たけとち  
 これちち  
 〇二入のち  
 ひまわり  
 まきとち  
 〇大木とち  
 〇トヘとち  
 〇ちちとち



三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心



三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心

三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心



三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心

三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心

三日月の夜  
 月夜の静けさ  
 庭の松の影  
 木漏れ日の光  
 静かなる心



[illegible]



玉壺生肌膏 一貝料 牝六乳  
 玉丹とさうきと一切のあつち  
 かしこの毛をけつるふけを毛をけつる  
 金瘡 奇功 帝一 枝料 牝六乳  
 即愈 奇功 帝一 枝料 牝六乳  
 うきをけつるあつちをけつるあつち  
 玉丹とさうきと一切のあつち  
 かしこの毛をけつるふけを毛をけつる



種員作

製菓所 新吉原 玉楼  
 取次所 真金山 柳下亭

國貞画

十勇士 尼子 柱礎

二巻 柳下亭種員  
 七巻 一雄 赤國輝

雨夜鐘 四巻 難破

二巻 柳下亭種員  
 七巻 一雄 赤國輝

誠忠 大星 譚

初巻 柳下亭種員  
 五巻 一雄 赤國輝

錦繪地本卸店

京都 無障所  
 錦見書院



部

作

種

月

九編下





# 其由縁部第九編

九曜文庫

種員作

國貞

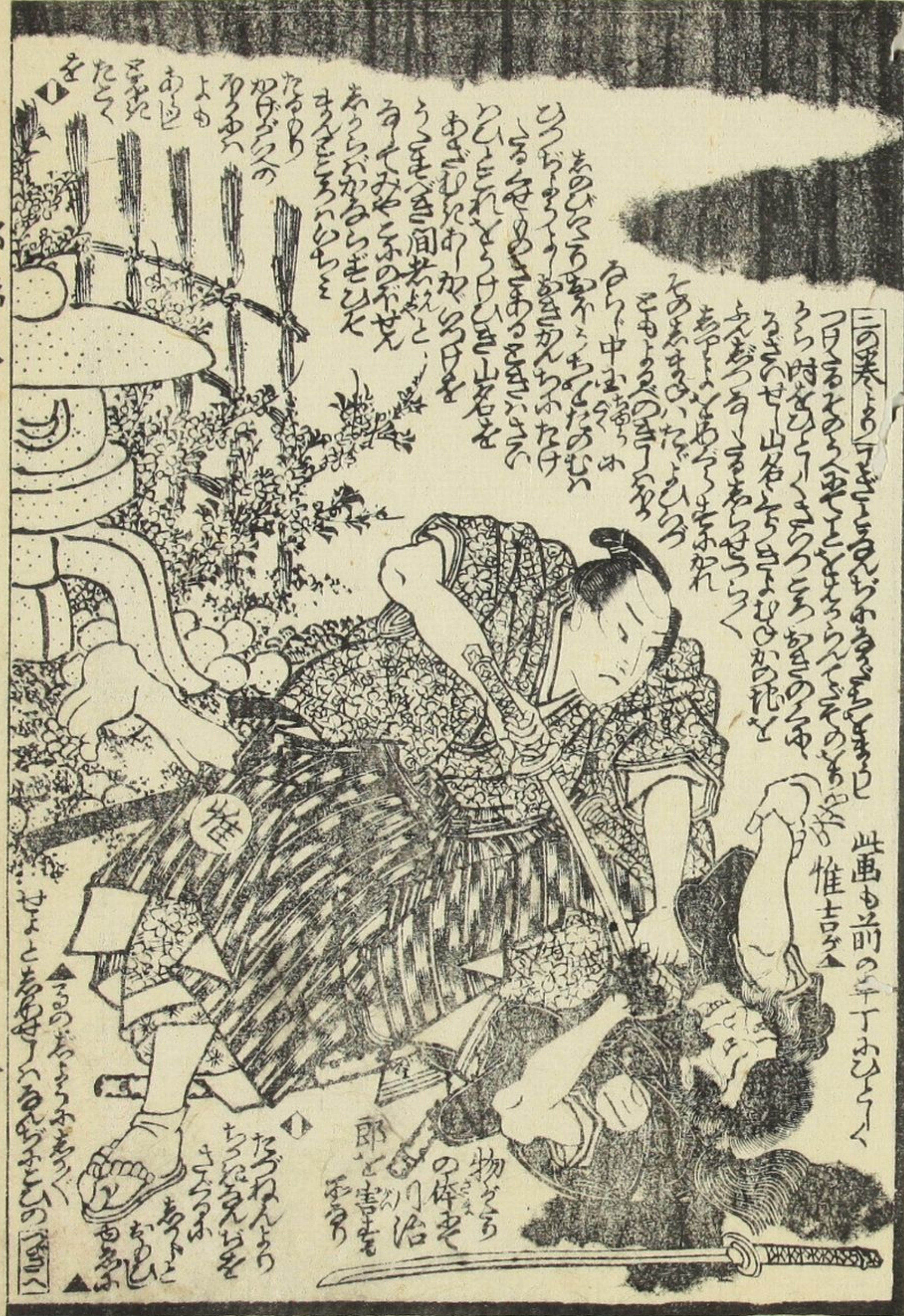
画

下冊

錦昇文庫

あつしもまぬ  
のうさうさふ  
身であけつて  
おのれおのれ

あせたる人瀬も  
まよふのうさふ  
うさうさ  
とるのねも



部第九

十一



山名にちきよむね  
 のちのちのちのち  
 さりてふりふり  
 のち生れはるる  
 さりてふりふり  
 のち生れはるる  
 さりてふりふり  
 のち生れはるる

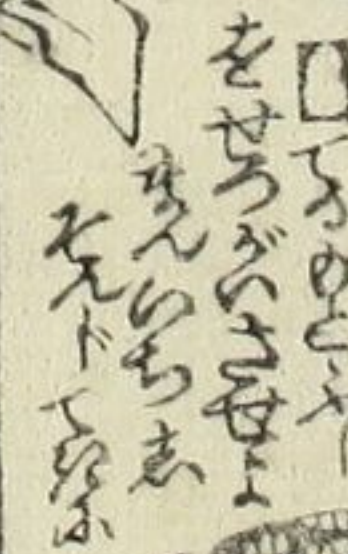


三がで舞甘つめられてもみぢの  
のれぬところとかいひげん





品  
位



平仲院と  
 かしらひてみだる  
 のけふさるをさる  
 そものちいやは  
 ひさうとてさ  
 かのうらふとめ  
 じふさるやうの  
 ぞくちあや  
 だちせよとの  
 れをかせや  
 りりぬとふ  
 うごむきのふ  
 まちやん  
 山名きよむひ  
 ちあうとるうじ  
 さふふ川流  
 ふめがらあて  
 ぬんひく  
 大内へを  
 せ  
 ぶけん  
 じふの  
 ごとく  
 かきまじ  
 てかれを  
 のて

[illegible]

す。  
てそふ  
のこそるが  
そのきあうく  
さうせんち  
らひあぐふ  
わいつせふ  
かきだせる  
ごちやふ

とうとうとあつ  
 てもめとうとうとあつむ  
 やうらふあつむと  
 みつあふとあつむ  
 やうらふあつむとあつむ  
 やうらふあつむとあつむ  
 やうらふあつむとあつむ

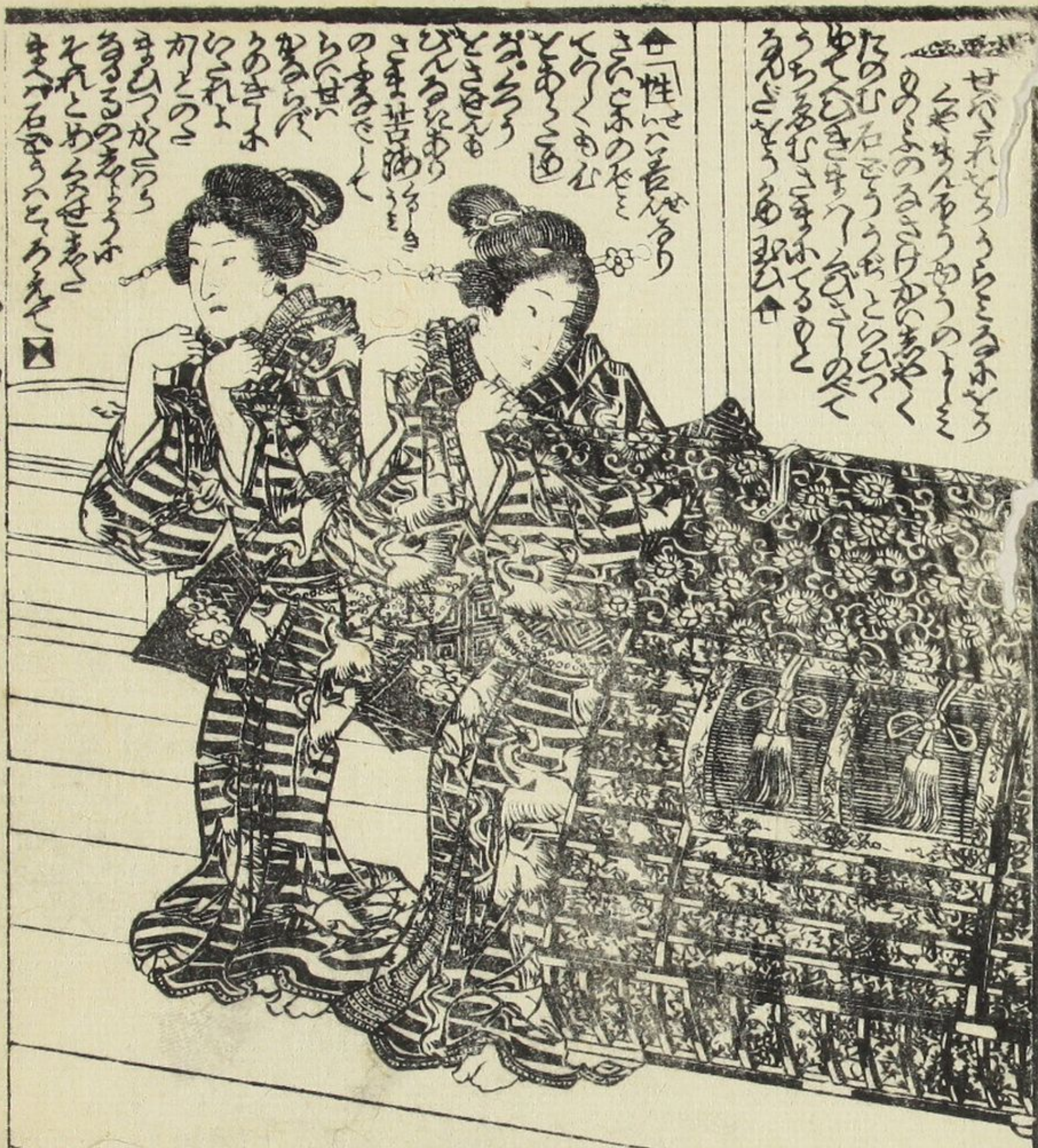




交みちいさ  
 らまるとあひのめを  
 あひいさあやでいさ  
 死にちいさとあひさ  
 一のあひさうさのぞ  
 ものあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ

ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ

甘んじようらるる  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ



性いさ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ

明石  
 里下  
 の体  
 其話  
 解へ次ふ  
 見えり

ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ  
 ちあひさうさのぞ













一、あゝ、みづのへはあ  
 よりもあゝ、みづのへはあ  
 くらゐ、みづのへはあ  
 かゝる、みづのへはあ  
 こゝろ、みづのへはあ  
 なゝめ、みづのへはあ  
 も、みづのへはあ  
 ても、みづのへはあ  
 まゝ、みづのへはあ  
 さゝい、みづのへはあ

一、あゝ、みづのへはあ  
 よりもあゝ、みづのへはあ  
 くらゐ、みづのへはあ  
 かゝる、みづのへはあ  
 こゝろ、みづのへはあ  
 なゝめ、みづのへはあ  
 も、みづのへはあ  
 ても、みづのへはあ  
 まゝ、みづのへはあ  
 さゝい、みづのへはあ



一、あゝ、みづのへはあ  
 よりもあゝ、みづのへはあ  
 くらゐ、みづのへはあ  
 かゝる、みづのへはあ  
 こゝろ、みづのへはあ  
 なゝめ、みづのへはあ  
 も、みづのへはあ  
 ても、みづのへはあ  
 まゝ、みづのへはあ  
 さゝい、みづのへはあ

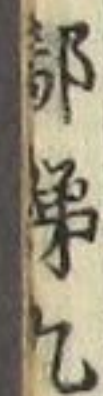
一、あゝ、みづのへはあ  
 よりもあゝ、みづのへはあ  
 くらゐ、みづのへはあ  
 かゝる、みづのへはあ  
 こゝろ、みづのへはあ  
 なゝめ、みづのへはあ  
 も、みづのへはあ  
 ても、みづのへはあ  
 まゝ、みづのへはあ  
 さゝい、みづのへはあ

一、あゝ、みづのへはあ  
 よりもあゝ、みづのへはあ  
 くらゐ、みづのへはあ  
 かゝる、みづのへはあ  
 こゝろ、みづのへはあ  
 なゝめ、みづのへはあ  
 も、みづのへはあ  
 ても、みづのへはあ  
 まゝ、みづのへはあ  
 さゝい、みづのへはあ



[illegible]

○ ちと  
さくえ  
むら  
さくの  
おまふか  
るふまふか  
こへてふたき  
くまふか  
ともふか  
さくえんふかと  
らくふか

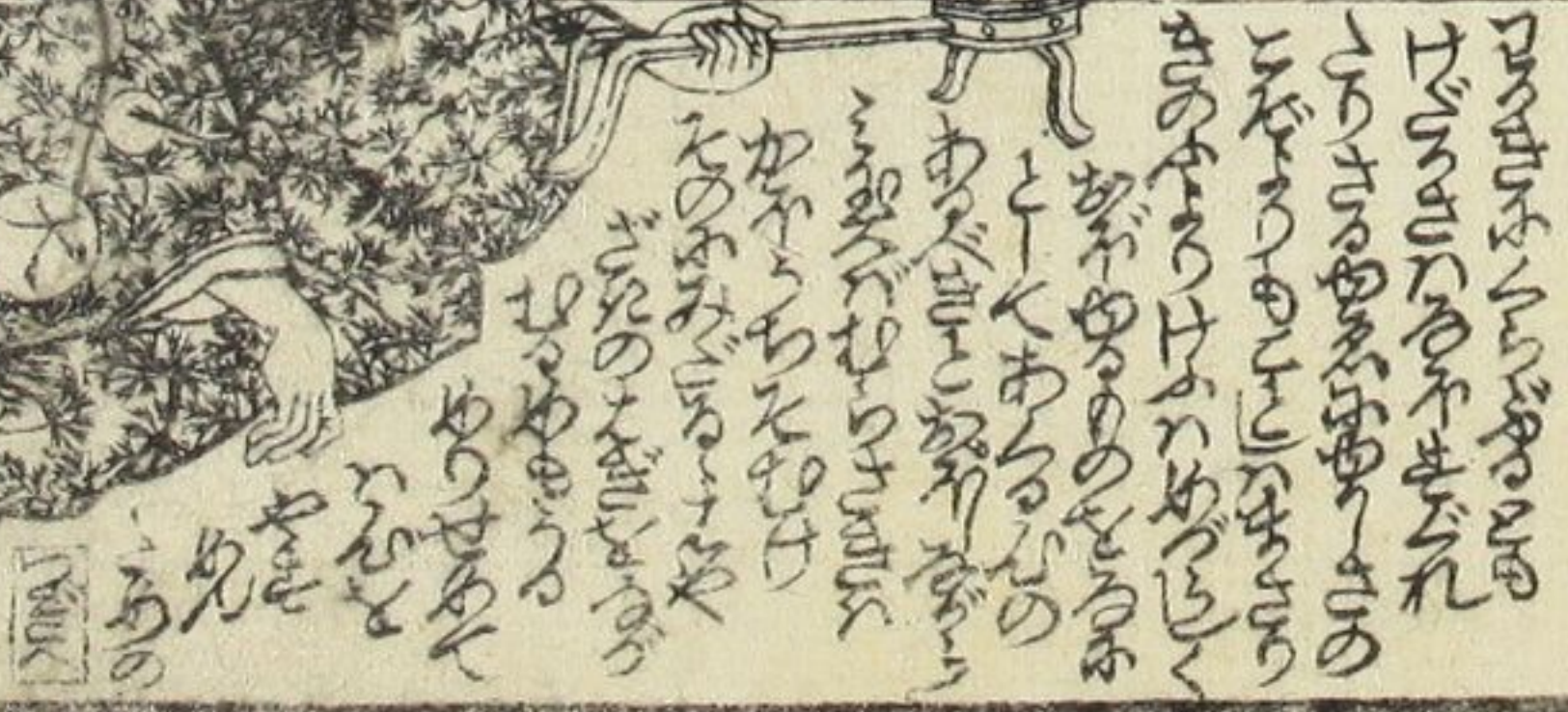




器  
作



A detail of a manuscript page, likely from the Lindisfarne Gospels, showing a decorative initial 'C' and a small square mark.



部弟乙









種員作  
國貞画

照降所北側  
惠比壽屋庄七



